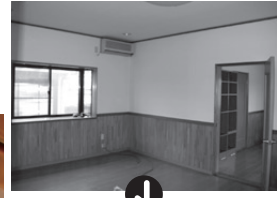


Date

所在地	富山県南砺市
家族構成	夫、妻、長女
構造と規模	木造2階建て
敷地面積	1002.17㎡ (303.21坪)
1階床面積 (改修部分)	49.57㎡ (15.00坪)
2階床面積 (改修部分)	49.57㎡ (15.00坪)
延床面積 (改修部分)	99.14㎡ (30.00坪)
築年数	約10年
改修費	約1,700万円 (解体費用込み、設計料別)

取材協力

新明設計
tel.0763-32-0797
砺波市本町2-32
http://www.sinmyo.net



シャープな設備機器と木の柔らかい質感が交錯するT邸。絶妙な混ざり具合に、いつまでもそこにいたくなる居心地の良さを感じる。

視線が外へと向かうLDKは、木製ペランダで下からの視線をシャットアウト。漆喰に反射する光が柔らかい。7mの間接照明は、梁を下から照らしているため、下へ影がでず、圧迫感を感じさせない。昼は外の光が差し込み、夜はくつろぎの雰囲気。

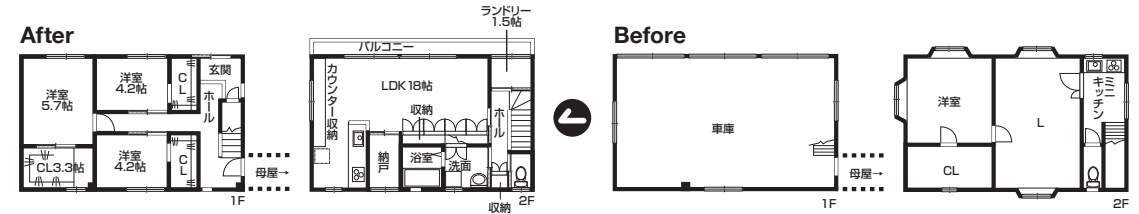
を提案。「畳と障子が欲しい」とのキーワードから導かれ、ほっこりした空気の流れる今の住まいが出来上がったそう。御祖父様がこだわったという松の梁やナラ床には、ご主人自らが体に無害の自然塗料で仕上げを施した。「畳に寝転がって梁が視界に入ると、祖父が残した建物の大梁と自分が塗った自然塗料が一緒になっていて、なんかすくなくうれくなる」とご主人。奥さまも「キッチンで作業しながら、畳で子どもが遊んでいるのを見るのが幸せ」と、話す。世代を越えて受け継がれた住まいに、新たな家族の歴史を刻んでいく様は、未来への希望を感じさせる。



右：白のモザイクタイル×黒色の陶製洗面ボウルのコントラストが美しい。左：玄関には階段下を利用した収納を設け、シューズクロークとして使用。



ダイニングテーブルと並列配置のキッチン。配膳・後片付けは作業動線を簡略化し、使いやすく。



外観の色は最後まで迷っていたそう。母屋とのバランスを考え、重厚感のある黒を選択。木製ルーバーがアクセントに。



周りの景観と自然を採り込んだ
新旧が交錯する住まい

富山県南砺市_医王山をのぞむ家

「晴れの日は、医王山まで見渡せるんです。冬はイオックススアローザのナイターもキレイですよ」と話すTさんの住まいは、元は車庫としていた離れ。2階を子世帯夫婦の住居として、母屋には親世帯が暮らす。子どもが誕生し、ゆくゆくは子ども部屋が必要になると考えたTさん夫妻は、住宅展示場などへ足を運んだこともあった。「初めはこの離れはそのままに、別棟を敷地内に新築することを考えていました。新明さんに相談していた時、『じゃあこの離れは何に使う?』という話になって。空いたままにしておくよりも、耐震補強や断熱改修もして活かした方が、祖父の建てたこの離れも無駄にならずに済む。そう思って、リノベーションを決断しました。」

とにかく収納が少なかったこと、キッチンが狭かったこと、寒くて風が強い日は揺れること...など、以前の住まいで不満に思っていたことを全て伝えた。その上で、構造チエックの際に見つけた大梁を現す空間

上：障子を閉めると、柔らかな光に。建具にこだわっているT邸は、建具の収まりも美しい。

中：床の自然塗料仕上げを終えての感想は? 「最初は不安だったけど、手を加えたことでより愛着が湧いた。ちょっとぐらいのムラも愛嬌!」と笑うご主人。

下：母屋とつながる扉。「別棟を建てていたら気軽に行き来できませんよね。この造りにして本当に良かった」と奥さま。

